

はしがき

本報告書は、ODA 評価有識者会議が外務省国際協力局より依頼を受けて実施した「ブラジル国別評価」の結果をとりまとめたものである。

日本の政府開発援助 (ODA) は、1954 年の開始以来、途上国の開発及び時代とともに変化する国際社会の課題を解決するために寄与しているが、今日、国内的にも国際的にも、より質の高い、効果的かつ効率的な援助の実施が求められている。外務省は ODA の調整官庁として、ODA の実施管理とアカウンタビリティの確保という二つの目的から、主に政策レベルにおいて ODA 評価を行っている。

本評価は、1) 2004～2008 年度に行われた日本の対ブラジル援助政策を全般的に評価し、今後の援助政策立案及び援助の効果的・効率的な実施に資するための教訓や提言を示すこと、2) 評価結果をブラジル政府・機関関係者や他ドナーにフィードバックすることで、政府開発援助 (ODA) 実施国における改善を図り、あわせて結果の公表により日本の ODA の広報と国民への説明責任を果たすこと、3) 今後新規策定が予定されている対ブラジル国別援助計画の検討作業に活用されるべく情報を提供することを目的としている。

なお、ODA 評価有識者会議は、評価の客観性を高めるために発足した外務省国際協力局長の懇談会であり、外務省国際協力局より ODA 評価の実施を依頼され、評価実施方法を策定の上、評価を実施し、その結果を報告書にとりまとめ、外務省国際協力局に対して提言・教訓等の参考意見を付してフィードバックする役割を担っている。本評価は ODA 評価有識者会議の今里義和委員が評価チーム主任として担当した。

本評価の実施にあたっては、神田外語大学の高木耕専任講師にアドバイザーとして参加頂き、多大な協力を賜った。また、外務省、独立行政法人国際協力機構 (JICA)、現地 ODA タスクフォース関係者はもとより、現地政府をはじめ多くの関係者からもご協力を頂いた。ここに心より謝意を表したい。なお、本評価では、外務省国際協力局評価・広報室が全体調整を行い、外務省が業務委託した (財) 国際開発センターが一連の情報収集・分析等補助業務を行った。

最後に、本報告書に記載された見解は、日本政府及びその他関係機関の立場を反映するものではないことを付記する。

2010 年 3 月

ODA 評価有識者会議

牟田博光	東京工業大学理事・副学長 (座長)
池上清子	国連人口基金東京事務所長
今里義和	東京新聞前論説委員

大野泉	政策研究大学院大学教授
田中弥生	独立行政法人大学評価・学位授与機構准教授
野田真里	名古屋NGOセンター理事・中部大学准教授
橋本ヒロ子	十文字学園女子大学社会情報学部教授
望月克哉	アジア経済研究所研究支援部研究支援部長
山形辰史	アジア経済研究所新領域研究センター貧困削減・社会開発研究グループ長／開発スクール教授